

美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化基本構想-産地型商社プラン-(概要)

2.美郷町の強み

- ①加工グループが多く6次産業化に取り組む文化・風土がある。
- ②発信力・誘引力のある店舗・人が複数存在する。
- ③旧村毎に物流の拠点となり得る直売所を有している。
- ④ふるさと納税の強化による地域経済の活性化の余地が大いにある。

3.美郷町の目指したいこと

- ①「栗での1点突破」による1次産業の発展
- ②各事業者の「儲かる農林業」の促進
- ③観光協会の収益化・産地型商社化

6.推進体制

- ①美郷町産業振興推進協議会の設置(R元年12月設置)
6次産業化基本構想推進拠点である美郷町産業振興推進協会が中核となって基本構想の推進を行う。
- ②産地型商社の設置(R3年度目途)
ふるさと納税代行業務(現在は町外事業者へ委託)の内制化を進め、出来るだけ早い段階で産地型商社がこれを担うことで、組織の財政基盤を安定させるとともに、その原資を用いて、産地型商社(中間支援組織)としての機能(主に販売力強化機能、起業・創業支援機能、地域ぐるみで取り組む6次産業化推進機能、地域おこし協力隊も含めた人材育成機能)を強化させる。



美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化基本構想の(仮)コンセプト

五感で楽しむ 美食の郷

美郷町でしか味わえない“五感で楽しむ美食”という新しい価値を本町に植え付けることで、1次産業の活性化を図る。また、交流人口の増加に伴い、飲食・観光に付随する物販等での外貨獲得を目指す。その一方で、外貨獲得に必要な産業は可能な限り域内で賄えるよう整備することで、より多くの人々が安心して暮らせる持続可能な町を目指す。

5.展開シナリオ

- STEP1. 6次産業化基本構想推進拠点(協議会)の整備(~R元年11月)
- STEP2. テストマーケティングの実践(R元年11月~R3年3月)
- STEP3. コンセプトの確立(~R2年9月)
- STEP4. コンセプトに基づいた誘引事業の実施(R2年10月~)
- STEP5. コンセプトに基づく補助事業の整備・運用(R3年4月~)
- STEP6. 美郷町内でお金を循環させる仕組みの充実・地域ぐるみでの6次産業化を推進するための拠点施設の整備(R4年4月~R6年3月)

7.成果目標(KPI)

- ※令和元年度~令和5年度の5カ年間の成果目標
- ①産地型商社の設置(中間支援組織) 1組織
 - ②担い手機関の設置(農業生産法人等) 1組織
 - ③新商品の開発に取り組む事業体数 5事業体
 - ④新商品の開発 20商品

1.美郷町の現状分析

①美郷町の将来推計人口

| 区分 | 2015年 | 2020年 | 2025年 | 2030年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 総数 | 5,480 | 4,809 | 4,185 | 3,125 |
| 0~14歳 | 491 | 423 | 353 | 259 |
| 15~64歳 | 2,361 | 1,872 | 1,485 | 1,033 |
| 65歳以上 | 2,628 | 2,514 | 2,347 | 1,833 |
| 65~75歳 | 1,002 | 1,046 | 895 | 483 |

②美郷町の主要1次産業の現状

- ◆金柑・栗・ゆず⇒JA日向管内の生産を本町が担う
 - ◆町内販売額トップ⇒金柑(野菜・果樹のうち)
 - ◆町内生産面積・生産戸数トップ⇒栗(野菜・果樹のうち)
※栗は他品目との複合経営が多い。
- 美郷町の農畜林産物販売実績(H29.2~H30.1)

| 区分 | 販売額 | 生産量 | 面積 | 生産者 |
|----|-----------|---------|---------|------|
| 金柑 | 163,599千円 | 246.8 t | 8.6ha | 27人 |
| 栗 | 54,280千円 | 90.0 t | 113.3ha | 114人 |

③観光入り込み客数

- ◆高千穂(観光入込客:130万人)からの流入増加検討⇒所要時間が1時間を超え積極的な検討は困難
- ◆本町の飲食店を目当てに訪れるケースも確認⇒本町の立地に一切誘引がないのではなく、目的来訪を促す強いコンテンツが少ない

④美郷町における6次産業化の現状

- ◆地域の特性を活かした農産加工グループがあるが、施設の老朽化、担い手不足の課題がある。
- ◆「株式会社栗処さいごう」による1次産業に付加価値をつけて産地を守る取り組みを進めている。
- ◆1次産品を取り扱う4つの直売所があるが、自走化・収益化に向けた取り組みが必要である。

4.モデル事例分析

- ◆島根県邑南町
 - ◆岡山県西粟倉村
 - ◆鹿児島県肝付町をモデル事例として分析
- ①お金をどう循環させるかを意識した取り組みがなされている。
 - ②「役場がやる」から周囲は面白いと思うため、行政であることを最大限活用する。
 - ③移住・地域おこし協力隊の確保ありきではなく、様々な取り組みの結果として制度の活用や移住が付随している。
 - ④トップの強い意志と行動力、組織の垣根を越えた動きや情報の共有が町の取り組みを成功に導いている。